

琉球大学学術リポジトリ

沖縄本島産アブラムシ類に関する調査（第1報）

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): アブラムシ, 沖縄本島, 発生状況, 寄主植物, 寄生部位, 天敵, 写真 キーワード (En): 作成者: 伊波, 興清, Iha, Kosei メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015216

沖縄本島産アブラムシ類に関する調査（第一報）

伊 波 興 清

(琉球植物防疫所)

沖縄におけるアブラムシにはサトウキビを害するカンシャワタアブラムシ、アブラナ科を害するニセダイコンアブラムシや、タバコのアブラムシなど重要害虫として知られているものが少なくない。それに気候に恵まれて年中発生し、特に春、秋にはしばしば異常発生して農作物に甚大な被害を与えることはよく知られている。筆者は農林局農業改良課勤務当時（1966年10月以前）に、市町村または農業改良普及所からの要請で一般病害虫の発生調査並びに防除協議会などに出席する機会が度々あったが、その折に沖縄本島の南・中・北部でアブラムシの発生状況なども調査観察することができ、その後も調査を続けて若干の成績を得たので、まとめて第1報として報告することにした。もとより短期間の調査であり、調査場所も一定せず、また調査の方法についてもさらに検討を要する点もあると思われるので、今後の調査で改めるなりまたは追加補足していく予定である。本報を発表するにあたってアブラムシ類の同定については皇学館大学の宗林正人博士、元大阪府立大学農業短期部の故高橋良一博士からいろいろ御教示をいただいた。またアブラムシの寄主植物名については、農林局農政部長の天野鉄夫氏、文化財保護委員会事務局の多和田真淳氏から御教示いただいた。アブラムシの撮影は植物防疫所の野原、長嶺両氏の手を煩わした。記して謝意を表する。

調査方法

1. 時期 1966年1月～12月

アブラムシの種類と月別の発生状況

アブラムシの種類	地域別	月												
		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
<i>Astegopteryx styracophila</i> Karsch エゴノネコアシ	S													
	C													
	N			+	+	+	△							

2. 場所 沖縄本島南部（玉城村当山、琉球農試のは場周辺、政府庁舎広場、其他）
沖縄本島中部（コザ農試、其他）
沖縄本島北部（今帰仁村呉我山、湧川、名ゴ農試、其他）

3. 方法

- イ. 発生状況については各調査地で、草本類に寄生する種では10株以上に、樹木では3株以上に発生している場合を調査の対象とし、それに達しない発生の場合はすべて極少（△）として扱った。なお草本、樹木ともにそれぞれの合計虫数が1～50匹を極少（△）、51～100匹を少（+）、101～300匹を中（++）、301～1000匹を多（+++）、1000匹以上を激（++++）として処理し、寄主植物の被害度は考慮しなかった。
- ロ. 寄主植物の調査、寄主の転換、食性の一端として寄主植物におけるアブラムシの寄生カ所、および天敵などの調査は、その都度観察した状況を記録した。

調査成績

1. アブラムシの種類と発生状況

採集したアブラムシの種類とその月別発生状況は次表のとおりであった。

アブラムシの種名	地域別 月別	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		S	C	N	S	C	N	S	C	N	S	C	N	S
<i>Ceratovacuna</i> sp.			≡	≡				+	≡	+	≡	≡		
カンシャワタアブラムシ <i>Oregma lanigera</i> Zehntner			+					≡						
コウシュンタケワタアブラムシ (新称) <i>Oregma koshunensis</i> Takahashi		+									+	≡	≡	
タケノヒメツノアブラムシ <i>Trichoegma bambucifoliae</i> Takahashi			≡	≡	≡	+	△	△	△		△	≡	≡	
ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ <i>Aulacorthum nipponicum</i> Essig et Kuwana			≡	+	△						△	+	+	
チシャノミドリアブラムシ <i>Amphorophora oleraceae</i> van der Goot			≡	≡	≡	+		△	△					
クサギノアブラムシ <i>Aphis clerodendri</i> Matsumura				≡	+		≡	≡		≡	≡	△	≡	
イチゴノミドリアブラムシ (新称) <i>Aphis ichigocola</i> Shinji				△	△	≡	≡	≡	≡	△	+	≡	≡	
ワタアブラムシ <i>Aphis gossypii</i> Glover		+	≡	≡	≡	≡	≡	+	≡	≡	≡	≡	≡	

アブラムシの種名	地域別	月												
		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
クロサワアブラムシ <i>Aphis kurosawai</i> Takahashi	S C N				△									
マメノアブラムシ <i>Aphis craccivora</i> Koch	S C N								≡	≡	≡≡	≡≡	≡≡	
キワタアブラムシ <i>Aphis nerii</i> Boyer	S C N		+	≡	≡	≡	≡	≡	+	+	≡	≡	≡	+
ユキヤナギノアブラムシ <i>Aphis spiraecola</i> Patch	S C N		≡ ≡	≡	≡	+	≡	≡	≡	≡	≡	+	+	≡
<i>Aphis</i> sp.	S C N					△			+			△		
<i>Aphis</i> sp.	S C N			+	△			△			≡	△		+
<i>Aiceona</i> sp.	S C N				+	+	≡		≡	+			≡	≡
アシガキノアブラムシ <i>Brachysiphoniella graminis</i> Takahashi	S C N				+	+	△							
スモモオマルアブラムシ <i>Brachycaudus helichrysi</i> Kaltenbach	S C N				+		△							≡
			△	≡	≡	≡	△	+						≡

地域別 アブラムシの種名	月別	月											
		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハナウドアブラムシ <i>Brachycolus heraclei</i> Takahashi	S C N			≡	≡	≡	≡	≡				≡	
タラフタヨアブラムシ <i>Cavariella araliae</i> Takahashi	S C N						△					△	≡
ヨモギクダナシアブラムシ <i>Cryptosiphum gallarum</i> Kaltentbach	S C N				≡	+							
台湾マツオオアブラムシ <i>Cinara piniformosana</i> Takahashi	S C N					≡	≡	+			△	△	△
<i>Cinara</i> sp.	S C N				≡	≡	≡	+					
<i>Cinara</i> sp.	S C N				≡	≡	≡						
マツホソアブラムシ <i>Eulachnus thumbergi</i> Wilson	S C N			△	≡	≡	≡		△		≡	≡	≡
ガジュマルケクダアブラムシ (新称) <i>Greenidea ficicola</i> Takahashi	S C N			△	△		△						△
ヨシフトオアブラムシ <i>Hyalopterus arundinis</i> Fabricius	S C N			≡	△		≡	△					

地域別	月	別	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			アブラムシの種名											
<i>Indomegoura</i> sp.	S													
	C			≡	△	≡								
	N		+	+	≡			≡						
ニセダイコンアブラムシ <i>Lipaphis pseudobrassicae</i> Davis	S	+	≡	+					△					
	C						≡	≡				≡	≡	≡
	N		≡											≡
ヒエノアブラムシ <i>Longiunguis sacchari</i> Zehntner	S													
	C										≡	≡	≡	△
	N										△		+	△
ムギノヒゲナガアブラムシ <i>Macrosiphum avenae</i> Fabricius	S													
	C					≡	+					≡	≡	
	N							△				≡		
タケノアブラムシ <i>Melanaphis bambusae</i> Fullaway	S			≡	≡	△				≡	≡			≡
	C													
	N			≡		△				≡	≡	≡		△
カラムシコブアブラムシ <i>Myzus boehmeriae</i> Takahashi	S	+	+											
	C													
	N												+	+
クスノアブラムシ <i>Megousa citricola</i> San des Goot	S													
	C								≡					△
	N				+	≡	△			△				
チシャノヒゲナガアブラムシ <i>Macrosiphum formosanum</i> Takahashi	S	+	+	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	C			≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	N		+	≡	≡			≡	≡	≡	≡	≡		≡
モモアカアブラムシ <i>Myzus persicae</i> Sulzer	S	+	≡	≡	≡	+	△			≡	△	△		△
	C		△		≡	≡	△			≡	△			
	N		△	≡	≡		≡						△	

地域別	月	別	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			アブラムシの種名											
バラノヒゲナガアブラムシ <i>Macrosiphum rosae ibarae</i> Matsumura	S				≡				△	△				△
	C				≡			≡	+					
	N		△	△	≡	≡	+	+						+
ヤマビワノケブカアブラムシ <i>Mollitrichosiphum yamabiwae</i> Suenaga	S													
	C				△	△	△							
	N													
キクヒメヒゲナガアブラムシ <i>Macrosiphoniella sanborni</i> Gillette	S	+		≡										
	C							≡		≡				
	N						△		≡		+	≡		
アオヒメヒゲナガアブラムシ <i>Macrosiphoniella yomogifoliae</i> Shinji	S							≡		△	△	≡	+	△
	C			△		+	≡	≡	△	+			+	
	N				+	≡	≡							△
<i>Macrosiphum</i> sp.	S			+	≡	≡								
	C													
	N		+											
マキコフキアブラムシ <i>Neophyllaphis podocarpi</i> Takahashi	S				≡	+	△		≡	+	≡	≡	△	△
	C							△	+	+	≡	≡	△	
	N		+	≡	△	+	+	△	△	+	+	≡		△
バナナノアブラムシ <i>Pentalonia nigsonerosa</i> Coquillett	S	+	≡		≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	C				≡	≡	≡			≡	≡	≡	△	
	N		≡		+		≡	+	≡	+	+	△		
<i>Paratrichosiphum</i> sp.	S				△	△		△					△	△
	C													
	N						+	≡	+			≡		
キビクビレアブラムシ <i>Rhopalosiphum maidis</i> Fitch	S			△	≡	≡	≡	≡	△	+	≡	≡	≡	△
	C					≡	≡	≡	△	△	≡	≡		
	N					≡	≡	≡						

地域別	月													
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
アブラムシの種名														
オカボノアカアブラムシ <i>Rhopalosiphum rufiabdomina</i> Sasaki	S C N			+	≡									
エノキアブラムシ <i>Shivaphis cellis</i> Das	S C N		+	≡	≡	△	+	△	≡		△	≡	△	
タケノヒゲマダラアブラムシ <i>Takecallis arundinaria</i> Essig	S C N													
タケノヒゲマダラアブラムシ <i>Takecallis arundinaria</i> Essig	S C N	△										△	+	+
コミカンノアブラムシ <i>Toxoptera aurantii</i> Boyer	S C N	+	≡	≡	≡	≡	≡	≡	+	+	≡	△	≡	
コミカンノアブラムシ <i>Toxoptera aurantii</i> Boyer	S C N		△		△				≡		≡	≡	△	
ミカンノクロアブラムシ <i>Toxoptera citricidus</i> Kirkaldy	S C N		+					≡						
ミカンノクロアブラムシ <i>Toxoptera citricidus</i> Kirkaldy	S C N				≡	≡		≡	≡	≡			△	
サルスベリヒゲマダラアブラムシ <i>Tinocallis kahawaluokalani</i> Kirkaldy	S C N			≡	≡	+	△	≡	≡			△		
サルスベリヒゲマダラアブラムシ <i>Tinocallis kahawaluokalani</i> Kirkaldy	S C N				≡		△	△						
ハゼアブラムシ <i>Toxoptera odinae</i> van der Goot	S C N	≡	≡	≡	≡		+	≡	△			+	≡	
ハゼアブラムシ <i>Toxoptera odinae</i> van der Goot	S C N				+		≡	△		≡	≡	≡	△	
ヤナギオオアブラムシ <i>Tuberolachnus salignus</i> Gmelin	S C N			≡	≡	≡	≡							
ヤナギオオアブラムシ <i>Tuberolachnus salignus</i> Gmelin	S C N	△	+		≡	≡	≡							
Staticobium sp.	S C N							≡						

注1. 発生状況図は正確な意味での発生消長図というべきものではなく、発見の記録といういどを表わす。

2. 1月は発見されたアブラムシの種類が少ないが、それは未発生であったことより、むしろ筆者の採集の不馴れが原因していたことを後で気づいたので再検討が必要である。

3. S：南部，C：中部，N：北部を示す。

2. 採集したアブラムシの寄主植物

エゴノネコアシ

エゴノキ (1966年3月25日, 呉我山)。

Ceralovacuna sp.

ホウライテク (1966年2月12日, 玉城村当山)。

Oregma lanigera Zehntner カンシャワタアブラムシ

サトウキビ (1966年2月12日, 玉城村当山)。

Trichoegma bambucifoliae Takahashi タケノヒメツノアブラムシ

ダイサンテク (1966年2月9日, 玉城村当山)。

Oregma koshunensis Takahashi コウシュンタケワタアブラムシ (新称)

ホウライテク (1966年1月22日, 玉城村当山)。

Aulacorthum nipponicum Essig et Kuwana ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ

オオヤブツルアズキ (1966年2月9日, 玉城村当山)。

Ampnorophora oleraceae van der Goot チシャノミドリアブラムシ

ハルノノゲシ (1966年2月2日, 国頭村辺土名)。

Aphis clerodendri Matsumura クサギノアブラムシ

リンドレイクサギ (1966年4月26日, 琉球農試),

クサギ (1966年6月15日, 伊是名村)。

Aphis ichigocola Shinji イチゴノミドリアブラムシ (新称)

ホウロクイチゴ (1966年6月13日, 呉我山), ナワ

シロイチゴ (1966年5月23日, コザ農試), リュウ

キュウイチゴ (1963年10月19日, 呉我山)。

Aphis gossypii Glover ワタアブラムシ

ブソウゲ (1966年1月12日, 那覇市与儀), ガー

ベラ (1月13日, 政府庁舎広場), サトイモ (2月

9日, 玉城村当山), オオハマボウ (2月9日, 玉

城村当山), アレチノギク (2月9日同上), ナス

(2月14日, 名護農試), ソラマメ (2月19日, 首

里) マサキ (2月21日, 那覇市与儀), ヤコウカ

(同上), キク (2月23日, 今帰仁村仲宗根), ゲッ

キツ (2月25日, 屋我地村済井出), フジ (2月27

日, 羽地村稲峯), バンジロウ (同上), トウガラシ

(3月5日, 久高島), タイワンレンギョウ (3月

15日, 崎本部), キユウリ (同上), オニタピラコ

(3月17日, 玉城村当山), テッポウユリ (同上),

アコウ (3月23日, 名護農試), ムクゲ (3月27

日, 具志頭), ブクリュウサイ (4月13日, 呉我

山), ニホンカボチャ (4月15日, 玉城村当山), ヤンバルナスビ (同上), ケイヌビワ (同上), ハマクワガタ (同上), クマツヅラ (4月15日, 同上), シマギンレイソウ (同上), オランダハツカ (4月18日, コザ農試), ホソバシャリンバイ (4月30日, 政府庁舎広場), スイカ (今帰仁村トキジン), イヌホウズキ (6月20日, 玉城村当山), センダングサ (7月4日, 南恩納), ヘチマ (7月14日, 久米島具志川村), リュウキュウボタンズル (同上), ベニバナホロギク (8月26日, 呉我山), シシトウガラシ (9月21日, 東村平良), フクリンアカリハ (10月10日, 那覇市与儀), リュウキュウヨモギ (10月29日, 首里)。

Aphis kurosawai Takahashi クロサワアブラムシヨモギ (1966年4月13日, 呉我山)。

Aphis craccivora Koch マメノアブラムシ

エビスグサ (1966年8月17日, 玉城村当山)。

Aphis nerii Boyer キワタアブラムシ

トウワタ (66年3月15日, 崎本部), キョウテクトウ (4月16日, 政府庁舎広場)。

Aphis spiraeicola Patch ユキヤナギノアブラムシ

カンコノキ (66年2月9日, 玉城村当山), サンゴ

ジュ (2月22日, 中城公園), トベラ (3月12日,

繁多川), イカダカズラ (3月17日, 玉城村当山),

コモジュ (2月22日, 中城公園), フカノキ (3月

25日, 呉我山), ホソバシャリンバイ (4月30日,

政府庁舎広場), センダングサ (5月23日, コザ農

試), シソ (5月24日, 今帰仁村湧川), ウスベニ

ガナ (6月15日, 伊是名村), ビワ (6月22日, コ

ザ農試), チシャノキ (7月7日, 玉城村当山), ソ

メモノカズラ (9月16日, 玉城村当山), スモモ,

(10月19日, 今帰仁村湧川), リュウキュウボタン

ズル (11月17日, コザ農試)。

Aphis sp.

リュウキュウクロウメモドキ (1966年3月25日, 呉

我山)。

Aphis sp.

オオムラサキシキブ (1966年9月16日, 玉城村当山)。

Aceona sp.

ハマイヌビワ (1966年4月30日, 政府庁舎広場)。

Brachysiphoniella graminis Takahashi アシガキノアブラムシ

タイワンアシカキ (1966年4月17日, 首里)。

Brachycaudus helichrysi Kaltentbach スモモオマルア

- ブラムシ
ベニホロギク (1936年2月23日, 今帰仁村玉城),
ヌマダイコン (同上), ムラサキカッコアザミ (4
月26日, 琉球農試).
- Brachycolus heraclei* Takahashi ハナウドアブラムシ
ヤブジラミ (1966年3月17日, 玉城村当山), ニン
ジン (4月10日, 宜野湾市大山), ウイキョウ (5月
16日, 那覇市国場), ミツバセリ (6月8日, 呉我
山), セルリー (3月20日, 那覇市国場).
- Cavariella araliae* Takahashi タラフタヨアブラムシ
タラノキ (1966年3月28日, 呉我山).
- Cryptosiphum gallarum* Kaltentbach ヨモギクダナシ
アブラムシ
ヨモギ (1966年5月6日, 琉大正門前).
- Cinara piniformasana* Takahashi タイワンマツオオ
アブラムシ
リュウキュウマツ (1936年5月14日, 政府庁舎広
場).
- Cinara* sp.
リュウキュウマツ (5月14日同上).
- Cinara* sp.
コノテガシワ (1936年5月2日, 那覇警察署前).
- Eulachnus thunbergi* Wilson マツホソアブラムシ
リュウキュウマツ (1966年5月14日, 政府庁舎広
場).
- Greenidea ficicola* Takahashi ガジュマルケクダアブ
ラムシ (新称)
ガジュマル (1936年5月31日, 政府庁舎広場), ア
コウノキ (6月13日, 今帰仁村湧川).
- Hyalopterus aurandinis* Fabricius ヨシフトオアブラ
ムシ
ダンチク (1966年10月19日, 名護農試).
- Indomegoura* sp.
ゴンズイ (1966年3月25日, 呉我山).
- Lipaphis pseudobrassicae* Davis ニセダイコンアブラ
ムシ
ダイコン (1966年5月16日, 那覇市国場), カラシ
ナ (1月31日, 琉球農試), タマナ (10月15日, コ
ザ農試).
- Longiunfuis sacchari* Zehntner ヒエノアブラムシ
ススキ (1966年9月6日, 呉我山).
- Macrosiphum avenae* Fabricius ムギノヒゲナガアブ
ラムシ
カラスギバサンキライ (1966年4月15日, 玉城村当
山).
- Melanaphis bambusae* Fullaway タケノアブラムシ
ホテイチク (1936年2月14日, 与那覇岳), リュウ
キュウチク (10月19日, 呉我山).
- Myzus Boehmeriae* Takahashi カラムシコブアブラム
シ
カラムシ (1936年1月20日, 玉城村当山).
- Megousa citricala* San does Goot クスノアブラムシ
クスノキ (1966年3月28日, 呉我山), ホソバタブ
(同上).
- Macrosiphum formasanum* Takahashi チシャノヒゲ
ナガアブラムシ
タイワンニガナ (1936年1月12日, 琉球農試), ハ
ルノノゲシ (同上), オニタビラコ (3月15日, 本
部町渡久地), タマチシャ (3月17日, 玉城村当
山), デシバリ (3月20日, 同上), リュウゼツサイ
(4月6日羽地村源河).
- Myzus persicae* Sulzer モモアカアブラムシ
パパイヤ (1936年2月9日, 玉城村当山), クコ
(1月31日, 琉球農試), ナズナ (2月10日, 豊見
城村田頭), モモ (2月23日, 呉我山), シシトウガ
ラシ (2月23日, 糸満町高峯), シイクワシヤ
(3月12日, 繁多川), ナス (3月23日, 名護農試),
ヨウサイ (4月20日石川), ダイコン (5月15日那
覇市国場), アゼガヤツリ (5月24日, 呉我山), タ
バコ (6月5日, 伊是名村), ハマナレン (8月17
日, 玉城村当山).
- Macrosiphum rasae ibarae* Matsumura バラノヒゲナ
ガアブラムシ
バラ (1936年1月22日, 名護町).
- Mollitrichosiphum yamabii* Suenaga ヤマビワノケ
ブカアブラムシ
ビワ (1936年5月20日, 石川).
- Macrosiphoniella sanborni* Gillette キクヒメヒゲナガ
アブラムシ
キク (1936年7月4日, 南恩納).
- Macrosiphoniella yomogifoliae* Shinji アオヒメヒゲ
ナガアブラムシ
ヨモギ (1936年5月24日, 呉我山).
- Macrosiphum* sp.
キツネノボタン (1936年4月18日, 那覇市国場).
- Neophyllaphis podocarpi* Takahashi マキコフキアブ

ムシ

イヌマキ (1966年8月17日, 玉城村当山)。

Pentalonia nigsonersosa Coquillett バナナノアブラムシ

バナナ (1936年1月21日, 今帰仁村湧川), ゲットウ (4月18日, コザ農試), ミヨウガ (6月8日, 呉我山), サトイモ (10月29日, 首里),

Paratrichosiphum sp.

リュウキュウテイカズラ (1966年6月13日, 呉我山)。

Rhopalosiphum maidis Fitch キビクビレアブラムシ

シマヨシ (1953年3月28日, 具志頭), ジュズダマ (4月15日, 玉城村当山), シマスズメノヒエ (同上), エノコログサ (4月18日, コザ農試), ナルコピエ (5月24日, 呉我山), ザラツキエノコログサ (5月24日, 名護農試), メヒシバ (6月8日, 呉我山), トウモロコシ (10月10日, コザ農試)。

Rhopalosiphum rufiabdominalis Sasaki オカボノアカアブラムシ

パインアップル (1963年4月27日, 名護町為又)。

Shivaphis cellis Das エノキアブラムシ

クワノハエノキ (1966年4月15日, 玉城村当山)。

Takecallis aurandinararia Essig タケノヒゲマダラアブラムシ

ホテイテウ (1936年3月23日, 名護農試)。

Toxoptera aurantii Boyer コミカンノアブラムシ

ガジュマル (1936年1月31日, 首里), ヒメツバキ (2月14日, 与那覇岳), モッコク (2月27日, 名護町), イタビカズラ (3月17日, 玉城村当山), サルカケミカン (同上), ヤマモモ (4月13日, 呉我山), ツバキ (7月23日, 具志頭), ナカハラクロキ (7月13日, 久米島具志川村), オキナワサザンカ (同上), リュウキュウテイカズラ (9月6日, 呉我山), モクタチバナ (10月18日, 玉城村当山), ゲッキツ (同上), イスノキ (10月19日, 今帰仁村湧川)。

Tinocallis kahawaluokalani Kirkaldy サルスベリヒゲマダラアブラムシ

サルスベリ (1966年3月12日, 那覇市与儀)。

Toxoptera odinae van der Goot ハゼアブラムシ

アカギ (1966年1月26日, 那覇市壺屋小学校), タイワンモミジ (1月25日, 首里), ハゼ (4月13日, 呉我山), アラリヤ (8月30日, 首里), トベラ (9

月17日, コザ農試), タラノキ (10月10日, コザ農試) サンゴジュ (10月18日, 玉城村当山)。

Tuberolachnus salignus Gmelin ヤナギオオアブラムシ

ヤナギ (1965年3月19日, 政府庁舎広場)。

Stalictobium sp.

イソマツ (1965年6月に与那国の海岸で満潮時に潮のかかるような地点で採集したものを参考までに記した)。

3. 寄主の転換について

アブラムシ類の年間の発生状況を見ると, 草本類に寄生するものでは寄主植物が老化すると近隣の新しい同種の植物に移動すると考えられるものと, チシャノヒゲナガアブラムシ (第1図) にみられるように明らかに同科の植物に移動するものがあり, 前者に該当する種類がかなり多い。

また樹木に寄生する種類では一株内の枝間の移動と, 株間または樹木間の移動があり, 前者は一部の枝に発生したアブラムシが10~20日位で次々と発生部位を変えて移動することが調査中ふつうに観察された。後者については充分なる観察結果を得ていないが次の理由で可能性が考えられる。すなわち枝間の移動を2~3カ月間繰返したアブラムシがたまたまその株で発生がみられなくなり, それまで発生しなかった周辺の樹木では発見されること, また第2図に示したように同種のアブラムシが常に他の樹木では各態の発生や産子の状態が観察されていることなどから寄主の転換をしたものと考えられる。次に寄主植物が一種しかわかっていないもの, 例えばヨモギに寄生するヨモギクダナシアブラ, バラに寄生するバラノヒゲナガアブラ, リュウキュウマツのマツホソアブラなどは次々と新しい株, または新芽を求めて移動するものと考えられる。しかしサルスベリに寄生するサルスベリノヒゲマダラアブラムシのように寄主が1種で, しかも冬期に落葉するものでは寄主の転換は考えられず, 冬期の落葉前に何らかの型で越冬体制にはいっていくものと思われる。ただその場合3月上, 中旬の萌芽と共にサルスベリの新芽で何時しか子虫や有し成虫が発見されるようになるがその冬期における生態については観察しておらず不明である。

チシャノヒゲナガアブラムシは第1表のように, 6種のキク科植物に寄生することを観察した。その主なものはハルノゲシ, アキノゲシおよびオニタビラコで,

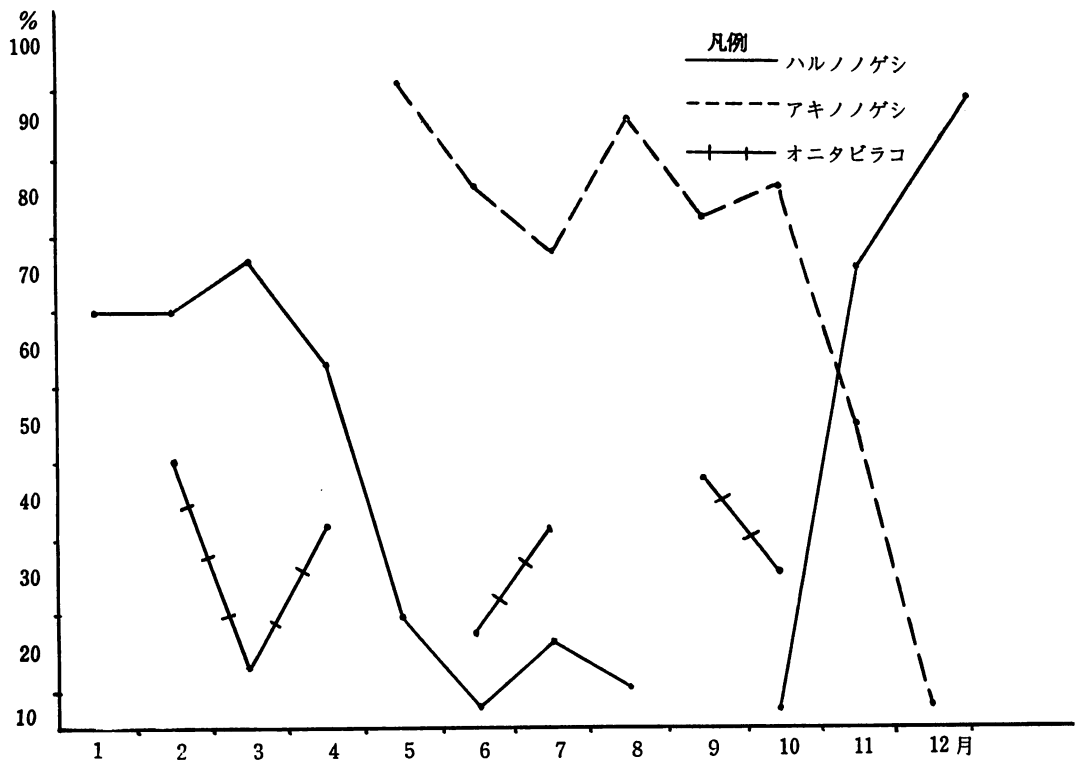
リュウゼツサイ、タイワンニガナでの寄生はごくわずかであった。月別の発生状況を寄主別にみると1月から4月まではハルノノゲシを主体にオニタピラコ、ヂシバリ、タイワンニガナの順になっている。また5月から10月まではハルノノゲシでの寄生が急激に減少し、アキノノゲシにおける寄生が逆に増加する。その間オニタピラコ、リュウゼツサイにも発生するがむしろ5月から10月までは、ハルノノゲシよりオニタピラコにおける発

生株が多くなる。11月から12月にかけては1月から4月までの場合と同様に再びハルノノゲシにおける発生が多くなり、アキノノゲシやオニタピラコでは減少する。即ち温暖時にはハルノノゲシに好んで寄生するが気温の上昇するにしたがいアキノノゲシに転換し、涼しくなると再びハルノノゲシを主体に寄生をくり返すものようである。なおその間毎月絶えず無し胎生雌虫による産子の状態が観察された。

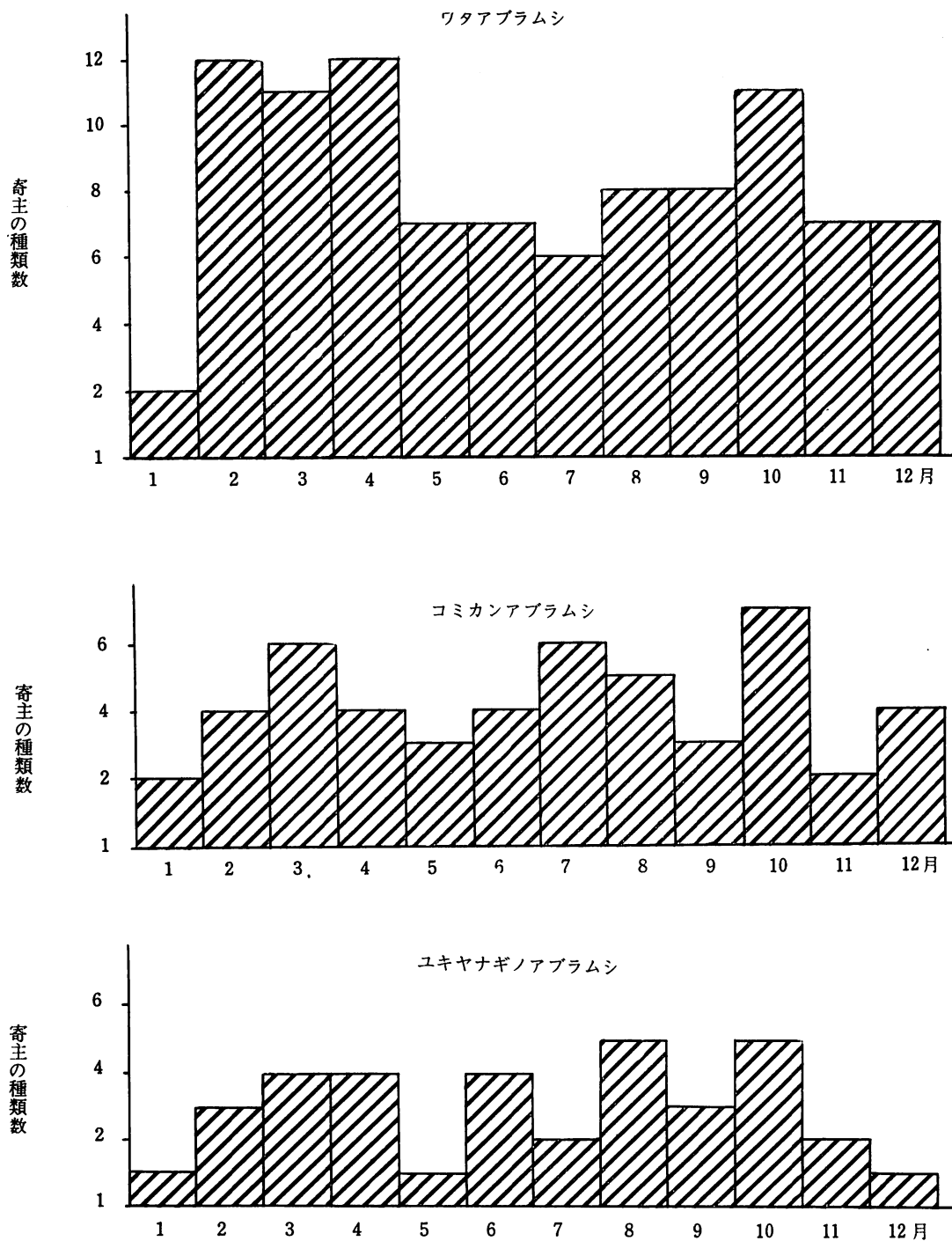
第1表 チシャノヒゲナガアブラムシの寄主別発生個体数割合

寄主植物	月 別											
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハルノノゲシ	60.00	60.00	68.00	54.00	15.00	3.00	11.00	5.00		3.00	60.00	83.00
アキノノゲシ					85.00	71.00	63.00	80.00	67.00	76.00	40.00	4.00
オニタピラコ		40.00	9.00	31.00		13.00	26.00		33.00	21.00		13.00
ヂシバリ			23.00	15.00				15.00				
リュウゼツサイ						13.00						
タイワンニガナ	40.00											

注 調査場所は玉城村当山



第1図 チシャノヒゲナガアブラムシの発生図



第 2 図 毎月アブラムシの発生がみられる寄主植物の種類数

4. 寄主植物におけるアブラムシの寄生部位について

(1) 主として葉部に寄生するもの

タケノヒメツノアブラムシ, バナナアブラムシ, *Macrosiphum* sp., モモアカアブラムシ, ワタアブラムシ, エノキアブラムシ, チシャノヒゲナガアブラムシ, チシャノミドリアブラムシ, ハナウドアブラムシ, ハゼノアブラムシ, マキコフキアブラムシ, コミカンアブラムシ, ミカンクロアブラムシ, サルスベリノヒゲマダラアブラムシ, アシガキノアブラムシ, キビクビレアブラムシ, ユキヤナギノアブラムシ, タラフタオアブラムシ, *Indomegoura* sp., *Aiceona* sp., ヨモギクダナシアブラムシ, タケノアブラムシ, ガジュマルノケクダアブラムシ, イチゴノミドリアブラムシ, クロサワアブラムシ, マツホソアブラムシ, *Cinara* sp., ニセダイコンアブラムシ, アオヒメヒゲナガアブラムシ, ヨシフトオアブラムシ, キクノヒメヒゲナガアブラムシ, カンシャワタアブラムシ, エゴノネコアシ, ピワノケブカアブラムシ, タケノヒゲマダラアブラムシ, コウシュンタケワタアブラムシ, カラムシコブアブラムシなど。

(2) 小枝または莖に寄生するもの

タイワンマツオオアブラムシ, *Cinara* sp. (寄主, コノテガシワ), *Ceratovacuna* sp. (寄主, ホウライチク), ヤナギノオオアブラムシ, *Paratrichosiphum* sp. (寄主, リュウキュウテイカカズラ), ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ, ムギノヒゲナガアブラムシなど。

(3) 主に花蕾に寄生するもの

オカボノアカアブラムシ, スモモマルアブラムシなどがあり, ワタアブラムシはガーベラ, キク, ヘチマ, ブッソウゲでは特に花蕾に多くあつまり, またチシャノヒゲナガアブラムシはハルノノゲシ, アキノノゲシでは花蕾に多く, ハナウドノアブラムシはヤブジラミで, キビクビレアブラムシはトウモロコシ, ジュズダマで, ニセダイコンアブラムシもダイコンの花蕾期にはそれぞれそこへ多く集中する。

(4) 寄主が異なると寄生部位がちがうもの

モモアカアブラムシはアブラナ科, ナス科その他ではふつう新芽の部分に寄生するが, アゼガツリでは葉柄のみに寄生し, タバコでは特に花蕾に集中する。ユキヤナギノアブラムシは, ウコギ科, バラ科などでは葉の部分にいるが, センダングサ, シソでは花蕾に, ソメモノカズラ, リュウキュウボタンズルでは主に莖部に寄生する。またキワタアブラムシは低位置の新芽に初発生をみるが, 蕾の形成時になると漸次花蕾に移動し, 落花後は再び元の低位置の新芽に移動するものようである。

(5) 1寄主に2種のアブラムシが寄生するもの

ハルノノゲシにはチシャノヒゲナガアブラムシとチシャノミドリアブラムシが別々の時期または寄主に寄生するのがふつうであるが, たまに同一の寄主に混生することがみうけられる。この場合チシャノヒゲナガアブラムシが優勢である。ハゼノアブラムシは夏, 冬期はアカギを主体にハゼノキなどに寄生するが, 9月以降にはトベラ, サンゴジュにも発生してくる。トベラやサンゴジュではユキヤナギノアブラムシがふつうにみられるがその時期になると前種といれかわるのが興味深い。タマナ, ダイコンではモモアカアブラムシとニセダイコンアブラムシが同時に発生するが常にニセダイコンアブラムシの個体数をはるかに多く, またタバコではモモアカアブラムシとワタアブラムシの発生が同時にみられるが, モモアカアブラムシが個体数の98パーセントも占めている。ガジュマルに発生するコミカンアブラムシとガジュマルノケクダアブラムシが同時にみられるが, 後者はよほど気をつけないとわからない程に常に少発生であった。北部におけるコミカンアブラムシは, 7月まではヒメツバキなど11種の寄主に発生するが8月にはいると, リュウキュウテイカカズラにも発生がみられる。その頃からもともとリュウキュウテイカカズラを寄主とする種と思われる *Paratrichosiphum* sp. は急激に減少する。半面コミカンアブラムシが当該寄主で多発するのもおもしろい現象である。

5. 天敵の発生記録 (1966年1~12月)

月 日	所	アブラムシの種名	アブラムシの寄主植物	天 敵
1月13日	政府庁舎広場	ワタアブラムシ	ガーベラの花	ホソヒラタアブの幼虫による捕食がわずかにみられた。
3月16日	玉城村当山	コミカンアブラムシ	イタビカズラ	100パーセント 寄生蜂が羽化脱出したのがみられた。
3月26日	呉 我 山	タラフタヨアブラムシ	タラノキ	99パーセント寄生蜂
"	"	<i>Aphis</i> sp.	リュウキュウクロウメ モドキ	80パーセント寄生蜂
3月27日	具 志 頭	コミカンアブラムシ	ゲッキツ	50パーセント寄生蜂
"	"	ハナウドアブラムシ	ヤブジラミ	ナナホシテントウ, ダンダラテントウの成幼虫による捕食が多かった。
4月6日	名護町許田	チシヤノミドリアブラムシ	ハルノノゲシ	アブの一種 (幼虫) による捕食がわずかにみられた。
4月13日	呉 我 山	<i>Aphis</i> sp.	リュウキュウクロウメ モドキ	寄生蜂多い。
4月16日	玉城村当山	ワタアブラムシ	ニホンカボチャ	クサカゲロウの一種 (幼虫) の捕食が多い。
"	"	コミカンアブラムシ	ゲッキツ	ホソヒラタアブ (幼虫) による捕食が多くみられた。
"	"	ハゼノアブラムシ	ハゼノキ	一部の寄主では寄生蜂の脱出したものが多くみられた。
"	"	タケノヒメツノアブラムシ	ダイサンテクムシ	オオテントウ (成・幼), テントウムシ (成) による捕食が活発であった。
4月18日	コザ農試	タラフタヨアブラムシ	タラノキ	98パーセント寄生蜂の羽化
"	"	ハナウドアブラムシ	ヤブジラミ	ナナホシテントウ, ダンダラテントウの成幼虫による捕食が活発
4月27日	那覇市与儀	サルスベリヒゲマダラアブラムシ	サルスベリ	クサカゲロウの幼虫による捕食がわずかに認められた。
5月16日	那覇市国場	キビクビレアブラムシ	トウモロコシ	ダンダラテントウの成虫による捕食が多い。
"	"	ニセダイコンアブラムシ	ダイコン	ナナホシテントウの成虫が多い。
5月17日	玉城村当山	キワタアブラムシ	トウワタ	テントウムシの幼虫による捕食がわずかにあった。
"	"	<i>Aphis</i> sp.	リュウキュウクロウメ モドキ	100パーセントの寄生蜂の羽化のあとが認められた。
5月24日	呉 我 山	スモモオマルアブラムシ	ベニホロギク	テントウムシの成虫による捕食が多い。
5月29日	那覇市与儀	サルスベリノヒゲマダラアブラムシ	サルスベリ	テントウムシの幼虫による捕食がわずかに認められた。

月 日	所	アブラムシの種名	アブラムシの寄主植物	天 敵
6月6日	政府庁舎広場	タイワンマツオオアブラムシ	リュウキュウマツ	オオフタホシヒメテントウの成虫、クサカゲロウの幼虫が周辺を這いまわっていた。
6月10日	糸満町マブニ	〃	〃	ダンダラテントウの成虫による捕食がわずかに認められた。
6月20日	玉城村当山	エノキアブラムシ	クワノハエノキ	コクロヒメテントウの成虫による捕食がわずかに認められた。
6月25日	政府庁舎広場	<i>Aiceona</i> sp.	ハマイヌビワ	カゲロウの幼虫による捕食がわずかにあった。
〃	〃	ユキヤナギノアブラムシ	ホソバシャリンバイ	同 上
6月29日	琉球農試	ヨシフトオアブラムシ	ダンテク	ダンダラテントウの成虫による捕食が活発。
7月4日	南 恩 納	キクノヒメヒゲナガアブラムシ	キク	同 上
7月7日	玉城村当山	ユキヤナギノアブラムシ	サンゴジュ	同 上
7月22日	〃	キワタアブラムシ	トウワタ	同 上
7月25日	コザ農試	イチゴノミドリアブラムシ	ナワシロイチゴ	ホソヒラタアブの幼虫による捕食がみられた。
8月17日	玉城村当山	サルズベリノヒゲマダラアブラムシ	サルズベリ	テントウムシの幼虫による捕食が多い。
8月26日	名 護 町	キワタアブラムシ	キョウチクトウ	ダンダラテントウ、オオフタホシヒメテントウの成虫が周辺を這いまわっていた。
10月10日	コザ農試	ユキヤナギノアブラムシ	ビワ	コクロヒメテントウの成虫による捕食がわずかに認められた。
〃	〃	クサギノアブラムシ	クサギ	テントウムシの成虫による捕食がわずかに認められた。
〃	〃	ワタアブラムシ	バンジロウ	テントウムシの幼虫による捕食が活発。
10月18日	玉城村当山	バナナアブラムシ	ミョウガ	ダンダラテントウの成虫による捕食が活発。
11月9日	〃	マメノアブラムシ	エビスグサ	ホソヒラタアブの幼虫による捕食がわずかに認められた。
〃	〃	<i>Ceralovacuna</i> sp.	ホウライチク	オオテントウの老熟幼虫による捕食が活発であった。
11月17日	コザ農試	タラフタヲアブラムシ	タラノキ	テントウムシの幼虫による捕食がわずかに認められた。アオカナヘビによる捕食が活発であった。
〃	〃	ハゼノアブラムシ	ハゼノキ	100パーセント寄生蜂の羽化があった。
12月19日	名護農試	ヨシフトオアブラムシ	ダンテク	同 上
12月26日	玉城村当山	コミカンアブラムシ	イタビカズラ	クサカゲロウの幼虫による捕食が認められた。
〃	〃	カラムシノコブアブラムシ	カラムシ	ナナホシテントウの成虫による捕食がわずかにあった。

月 日	所	アブラムシの種名	アブラムシの寄生植物	天 敵
12月26日	玉 城 村 当 山	スモモオマルアブラムシ	ムラサキカッコアザミ	ダンダラテントウ, ナナホシテントウによる捕食が活発であった。
"	"	コミカンアブラムシ	ゲッキツ	100パーセント寄生蜂の羽化があった。
"	"	ガジュマルノケクダアブラムシ	アコウ	ダニの一種の寄生がわずかに認められた。
12月29日	琉 大 附 近	スモモオマルアブラムシ	ムラサキカッコアザミ	ヒメカメノコテントウ, コクロヒメテントウの成, 幼虫による捕食が多い。

おわりに

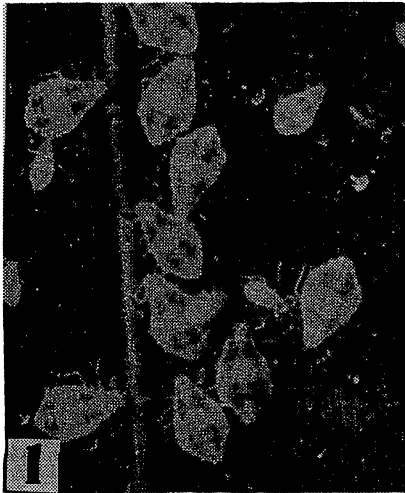
- 1966年1月から12月までに筆者が沖縄本島を主体に採集または発生を確認した、ワタアブラムシ科、5種（うち1種は未同定）、アブラムシ科50種（9種は未同定でそのうち1種は1965年6月、与那国で採集した *Staticobium* sp. を含む）についての月別の発生の状況を記録した。またアブラムシ類の発生活長を左右する重要な要因として次の事項が考えられた。すなわち真の発生活長は年間の気象状況を基礎に調査されることは当然で、その他天敵との関係も無視することはできない。例えばある調査時には多発の状態にあったアブラムシが、1週間後の観察時には1匹も発見されなくなったことがしばしばあり、それはテントウムシやクサカゲロウ、寄生蜂あるいは寄生菌などの天敵による抑圧が大きく原因していたこと、また寄主植物の伸長度合、即ち伸び具合、萌芽の多少と位置なども、発生活長とときはなして考えられない要素があるように思われた。さらに周辺の昆虫との関係、例えば一部の地域では4月にトベラに発生するユキヤナギノアブラムシと、キジラミの一種との間に縄ばりの現象とみられる状態が観察されており、他の昆虫との関係も無視できないものがある。また人的障害、すなわち圃場周辺の清掃による一部アブラムシの生息の攪乱、あるいは1樹木における剪定作業なども充分考慮すべき事項であると考えられる。
- 寄主の転換については、時期的に明らかに寄主の転換が観察されたのはテシャノヒゲナガアブラムシの1件であった。ワタアブラムシ、コミカンアブラムシ、ユキヤナギノアブラムシについても年間を通じて数種の寄主植物をかえて発生が認められた。また常に有し虫の発生や無し胎生めす虫による産子の状態が観察された。しかし卵もしくは産卵の状態については観

察する機会がなかった。ある種のアブラムシでは卵による越冬の可能性も考えられる。

- 寄主における寄生部位については、判然と区別できるもの、例えばヤナギノオオアブラムシ、タイワンマツオオアブラムシ、*Cinera* sp. などのように小枝の表面にのみ寄生する種と、キョウチクトウに寄生するキワタアブラムシのように時期によって寄生する部分の異なるもの、また同一の寄主においても時期によって異なった種が入れかわるものなど興味深い転換が観察された。
- 天敵についてはテントウムシの数種、クサカゲロウ、ホソヒラタアブ、寄生蜂、寄生菌などによる捕食または寄生の状態が観察されたが、コザ農試においてタラノキに発生する *Indomegoura* sp. を捕食するアオカナヘビの活動は敏速で且多量に摂食するものようであった。寄生蜂は発生を確認した55種類のアブラムシのうちごく限られた種類すなわちイタビカズラとゲッキツに寄生するコミカンアブラムシ、ハゼノキに寄生するハゼアブラムシ、リュウキュウクロウメモドキに寄生する *Aphis* sp. タラノキに寄生するタラフタヨアブラムシについて観察することができた。テントウムシによる抑圧といえ玉城村の当山や其他で観察したオオテントウムシによる *Ceratovacuna* sp. の捕食活動は特記すべき重要なものであった。

参 考 文 献

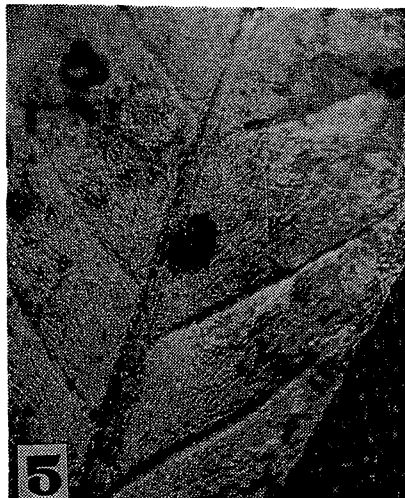
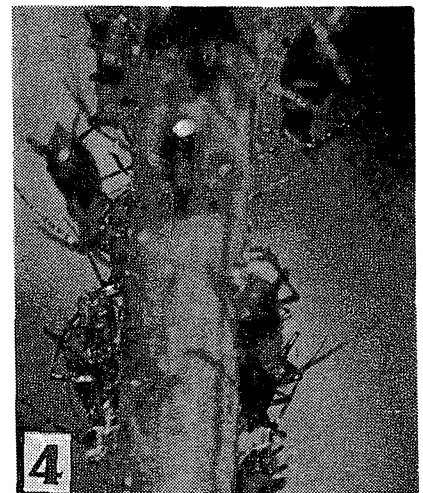
- 森津孫四郎 1953. 日本昆虫図鑑 336~356
- Shiraki, Tokuichi 1954. Scientific Investigations in the Ryukyu Islands, Catalogue of Injurious Insect in Ryukyu Islands 28~34, Pacific Science Board National Research Council Washington
- 初島住彦ら 1958. 沖縄植物目録



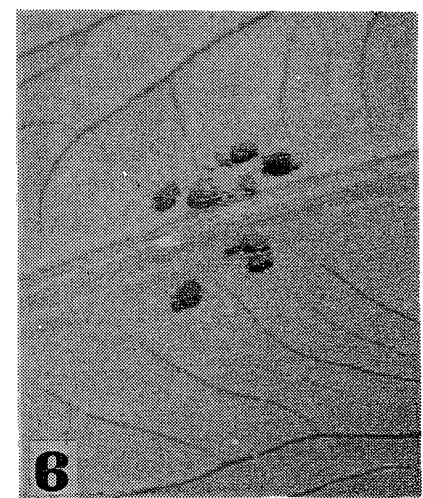
- 1 タケノヒメツノアブラムシ
- 2 カラムシコブアブラムシ

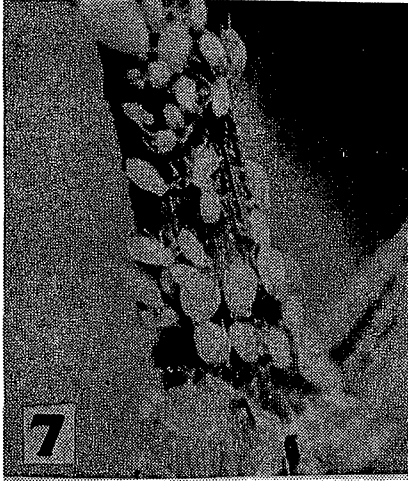


- 3 キビクビレアブラムシ
- 4 チシャノヒゲナガアブラムシ



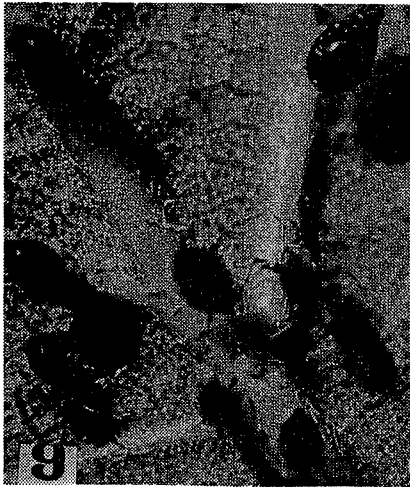
- 5 *Aphis* sp. (寄主 オムラサキシキブ)
- 6 ワタアブラムシ





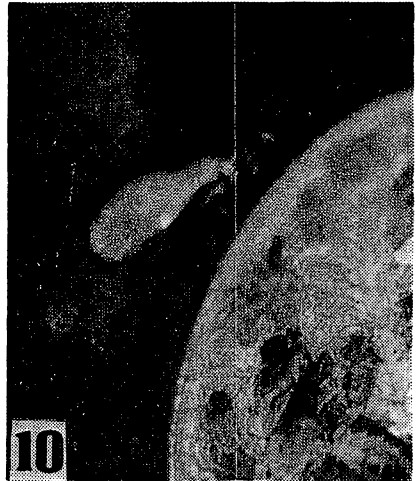
7 ユキヤナギノアブラムシ

8 ヒエノアブラムシ



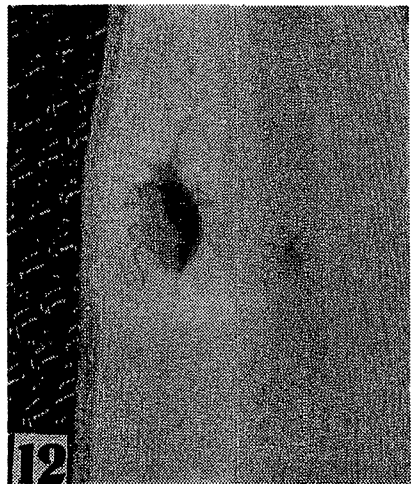
9 コミカンアブラムシ

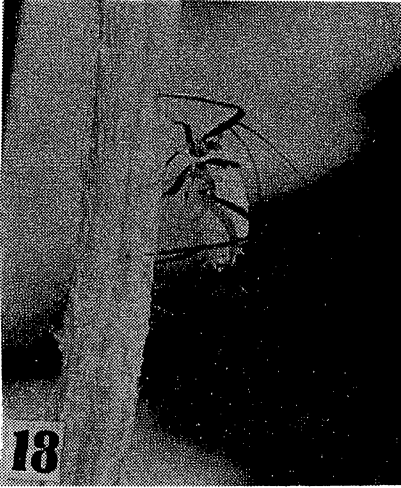
10 コミカンアブラムシ



11 コウシュンタケワタア
ブラムシ

12 マキコフキアブラムシ





13 アオヒメヒゲナガアブラムシ

14 同上



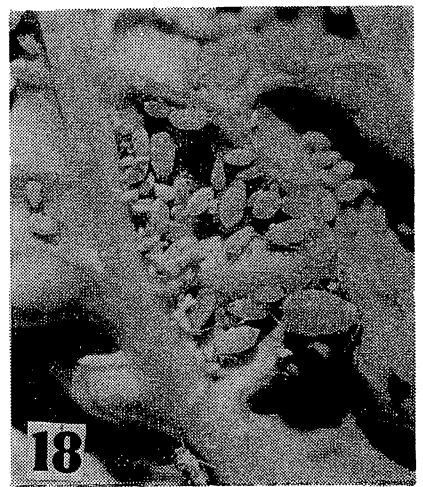
15 クサギノアブラムシ

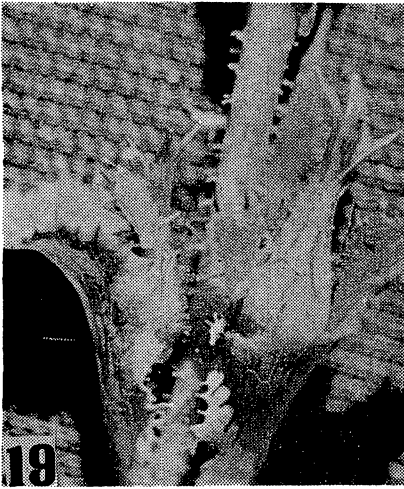
16 マメノアブラムシ



17 エノキアブラムシ

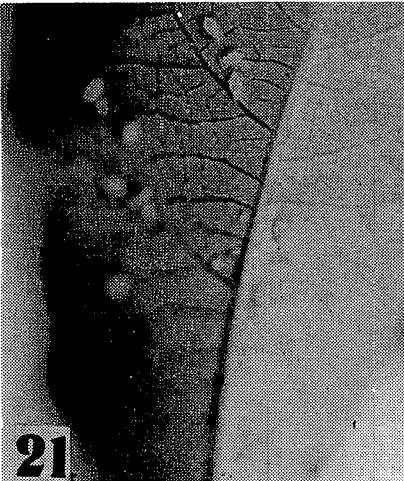
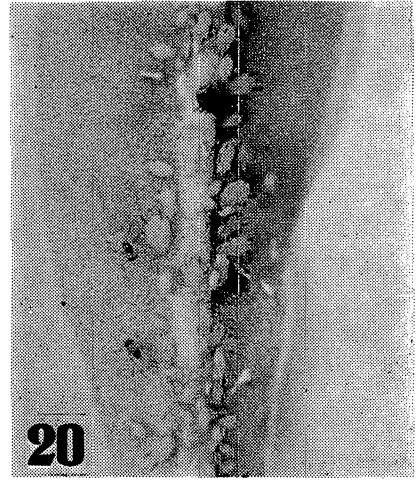
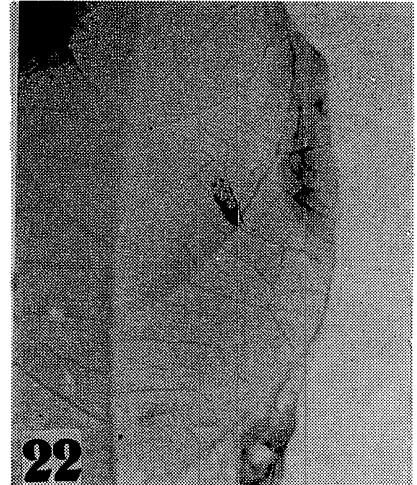
18 ニセダイコンアブラムシ





19 バラノヒゲナガアブラムシ

20 キワタアブラムシ

21 サルスベリノヒゲマダ
ラアブラムシ22 サルスベリノヒゲマダ
ラアブラムシ23 *Aiceona* sp.
(寄主 ハマイヌビワ)
Aphis sp.

24 マツホソアブラムシ





25 アブラムシ類は常に樹木の下部あたりの円内の新芽を求めて発生する (1955年12月28日写す) *Aiceona* sp.

26 同上 (円内はキワタアブラムシの発生する新芽の部分)



27 コミカンアブラムシが発生したモクタチバナの新芽の部分

23 イチゴノミドリアブラムシが発生したナワシロイチゴの新芽の部分



29 ホウライチクに発生した *Ceratovacuna* sp. を捕食するオオテントウの幼虫

30 ハルノノゲシにおけるチシャノヒゲナガアブラムシ

